

大陸指第九號

指 示

大陸命第八號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 中支那方面軍司令官ハ其任務遂行ノ爲揚子江海岸ノ要地ニ一部

ノ作戰ヲ實施スルコトヲ得

ニ 中支那方面軍ハ支那方面艦隊ト協同作戰スルモノトス其作戰ニ

關シテハ方面軍司令官支那方面艦隊司令長官ト直接協定スヘシ

三 宣傳謀略及一般諜報ハ方面軍司令部附少將ヲシテ實施セシムヘ

但報道ハ「報道部發表」ノ形式ニ依ル謀略ニ關シテハ別ニ指示ス

ル

ワス達備漢簡ノ使用ニ關シテハ更メテ指示ヲ待ツヘシ

昭和十二年十二月一日

大陸指第十號

指 示

大帥命第八號ニ基キ左ノ如ク指示ス

中支那方面軍司令官ハ他ニ轉用ノ爲左記所掲日次ニ乗船ヲ開始シ得

ル如ク部隊ヲ集結スヘシ

一、上海附近ニ

(1) 第十一師團（歩兵一旅團及(1)(2)ニ示ス部隊欠）

(2) 重慶支隊ノ歩兵一聯隊

以上十二月十五日

(3) 騎兵第十一聯隊

右十二月十八日

陸 軍

0305

(一) 第十一師團輜重二中隊

第十一師團野戰病院二

野戰鑿井中隊一

以上十二月十九日

獨立飛行第六中隊(甲)

獨立飛行第十五中隊(乙)

以上十二月二十五日頃ト豫定スルモ改メテ示

ス

三 段山附近ニ

重藤支隊 (歩兵一聯隊欠)

右十二月十五日

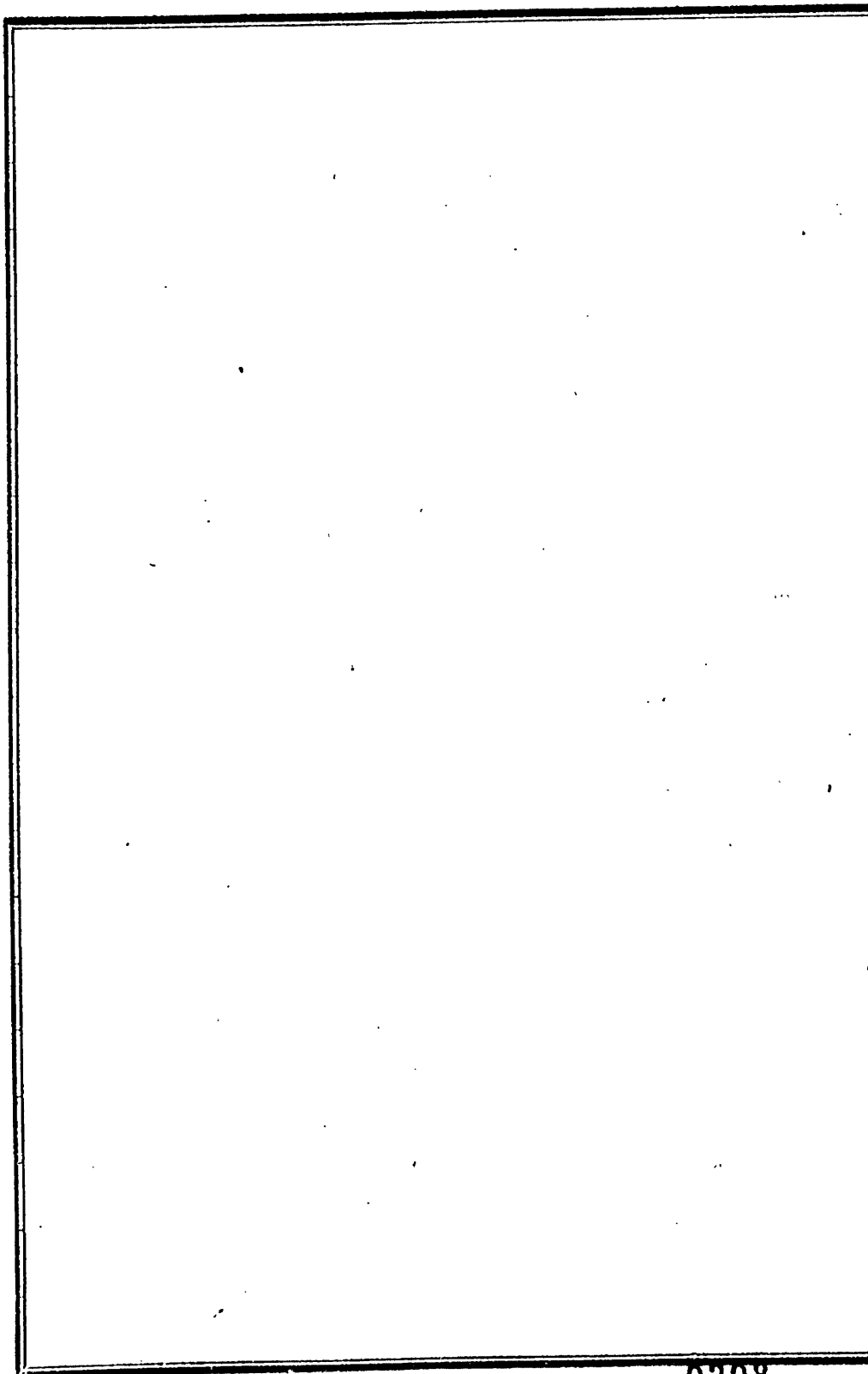
三 集結位置ノ細部ノ變更ニ關シテハ參謀三吉歩兵大尉ヲシテ連絡セ

シム

昭和十二年十二月三日

陸軍

0307



日本標準規格 B-4

0308

大陸指第十一號

指示

大陸命第二十三號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、第五軍ハ第四艦隊ト協同作戰スルモノトス

協同作戰ニ關シテハ別冊「平海作戰陸海軍中央協定拔萃」ニ準據スヘシ

ニ、海軍ト協同シテ占領スヘキ地點ハ平海半島トス別ニ三密電ヲ海軍ノ占領後之ヲ守備スヘシ
(本項十月九日陸海軍中央協定ニ伴ヒ削除ス)

三、作戰ノ實施ニ方リテハ第三國特ニ英國ノ領域等ニ對スル考慮ヲ周密ナラシムヘシ

四、航空基地確保ニ必要ナル範圍ニ於テ平海半島ヲ占領セハ爾後ナルヘク少數兵力ヲ以テ相當長期ニ亘リ守備スル如ク施設スヘシ

陸軍

0309

五 航空部隊ノ對地攻撃ノ目標ハ本作戦ノ趣旨ニ鑑ミ政略的意義ヲ有
スル目標ハ努メテ之ヲ避クヘシ

六 軍司令官ハ臺灣ニ在リテ指揮スルヲ本則トスヘシ

七 軍司令官ハ所要ノ部隊ヲ臺灣ニ位置セシムルコトヲ得

八 瓦斯ノ使用ニ關シテハ更メテ指示ヲ待ツヘシ

九 補給交通衛生及輸送ニ關シテハ別ニ指示ス

十 参考ノ爲左記書類ヲ附與ス

第五軍作戦要領案

昭和十二年十二月七日

大陸指第十三號

指 示

臨參命第七十七號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 左記部隊ヲ第五軍司令官ノ指揮下ニ入ラシム

左 記

第一船舶輸送司令部派遣指揮機關 一

碇泊場司令部(甲) 一

碇泊場司令部(乙) 一

獨立工兵中隊(丁) 三

陸上輸卒隊 二

水上輸卒隊 二

陸 軍

0311

三細部ニ關シテハ第一船輸送司令官ト協議スヘシ

昭和十二年十二月七日

大本營
陸軍部 參密第一四八號第一

海運地警戒ニ關スル件通牒

昭和十二年十二月十一日

大本營陸軍部總務部長 中島 鐵藏

第四師團參謀長 岡田 資 殿

第十二師團參謀長 中村 正 雄 殿

中部防衛參謀長 渡邊 正 夫 殿

西部防衛參謀長 永見 俊 德 殿

第一鑄道線區司令官 岡 富 夙 夜 殿

第一船組輸送司令官 松 田 卷 半 殿

防衛司令部成立ニ伴ヒ臨命第四二六第四五三號ノ中警戒ニ關スル
任務ハ別命ナク所管防衛司令官ニ轉移スル義ト承知相成度爲通牒

陸軍

0313

ス

中、西防衛司令部ノミ

(追テ臨命第四五三號第四二六號送附ス)

大陸指第二十四號

指 示

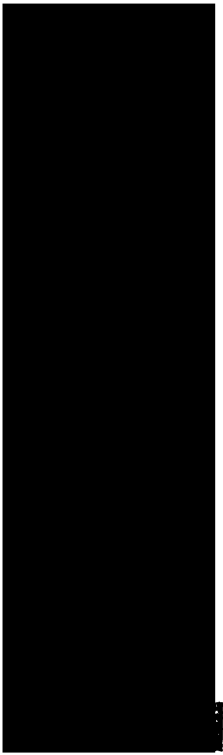
大陸命第二十四號ニ基キ左ノ如ク指示ス

- 一 中支那方面軍司令官ハ揚子江右岸地區内諸要地ノ安定確保ノ任務達成ノ爲揚子江左岸地區ニ一部ノ作戰ヲ實施スルコトヲ得
- 二 中支那方面軍ハ支那方面艦隊ト協同作戰スルモノトス其作戰ニ關シテハ方面軍司令官支那方面艦隊司令長官ト直接協定スヘシ
- 三 瓦斯竝催涙筒ノ使用ニ關シテハ更メテ指示ヲ待ツヘシ

昭和十二年十二月十二日

陸
軍

0316 0315



瑪瓦斯拉催淚筒ノ使用ニ關シテハ更メテ指示ヲ待ツヘシ

昭和十二年十二月十二日

指示ス

一岸地區内諸要地ノ安定確保ノ任

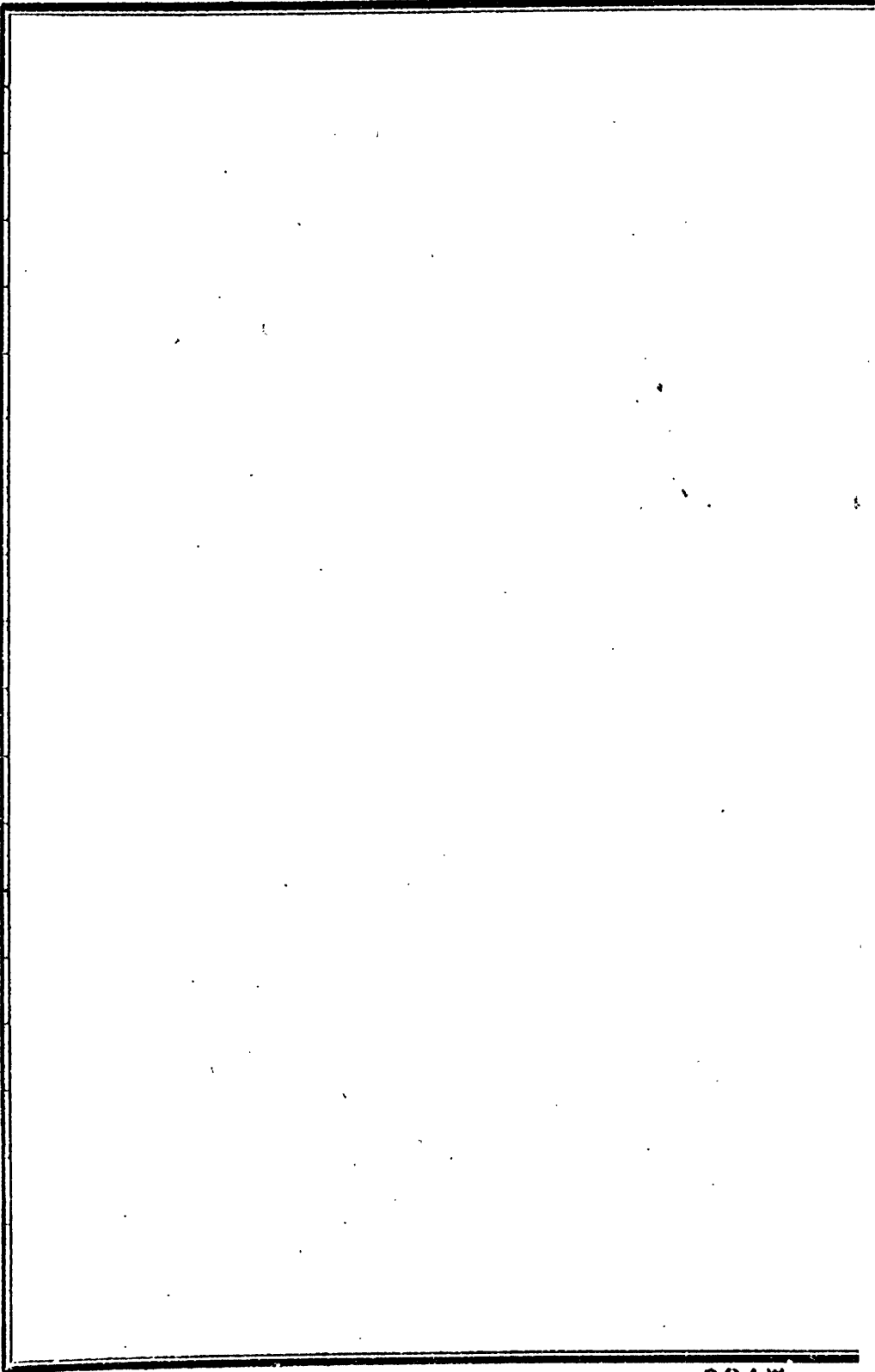
部ノ作戰ヲ實施スルコトヲ得

・協同作戰スルモノトス其作戰ニ

出艦隊司令長官ト直接協定スヘシ

陸軍

0316 0315



日本標準規格 B-4

0317

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大陸指第二五號

指 示

大陸命第二十號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、臺灣軍司令官ハ獨立飛行第十五中隊(1)ノ空中輸送ノタメ臺北及金門島ニ航空路勤務員ヲ配置スヘシ之カタメ人員、器材並燃料等ノ使用ニ關シ飛行第八聯隊長及飛行第十四聯隊長ヲ區處スヘシ

二、留守航空兵團長ハ前項ニ關シ飛行第八聯隊長及飛行第十四聯隊長ヲシテ臺灣軍司令官ノ區處ヲ受ケシムヘシ

三、細部ニ關シテハ要スレハ臺灣軍司令官留守航空兵團長ト協議スルモノトス

陸軍

0318

昭和十二年十二月十三日

大陸指第二十六號

指 示

大陸命第三十四號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 臨命第五百八十四號指示ニ依リ集結シアル一師團ヲ使用スルコ

トヲ得

二 北支那方面軍ノ兵力ハ差當リ増加セラレス又船舶及揚陸材料等

ヲ配當スルヲ得ス

三 彈藥ハ概ネ一會戰分ヲ保有シ得ル如ク所要量ヲ交付ス

四 青島方面及南郡山西省ニ對スル爾後ノ作戰發起ハ更メテ指示ヲ

待ツヘシ

五 青島ノ處理ハ陸海軍協同シテ之ニ當ル本件ニ關シテハ別ニ指示

陸 軍

0320

×

昭和十二年十二月十八日

大陸指第二十九號

指 示

大陸命第三十六號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一、第五軍ノ上陸ニ關シテハ軍司令官第一船舶輸送司令官ト協議實施スヘシ

二、軍司令官ハ隷下諸部隊ヲ練成及爾後ノ行動ニ便ナル如ク適宜集結配置シテ特種訓練ヲ行フヘシ

之カ爲船舶機關ハ常分其指揮下ニ存置スルト共ニ訓練ニ必要ナル若干ノ船舶ヲ配屬ス

右配屬船舶ニ關シテハ直接第一船舶輸送司令官ニ協議スヘシ

三、兵站ニ關シテハ大陸指第十二號ヲ準用ス

陸 軍

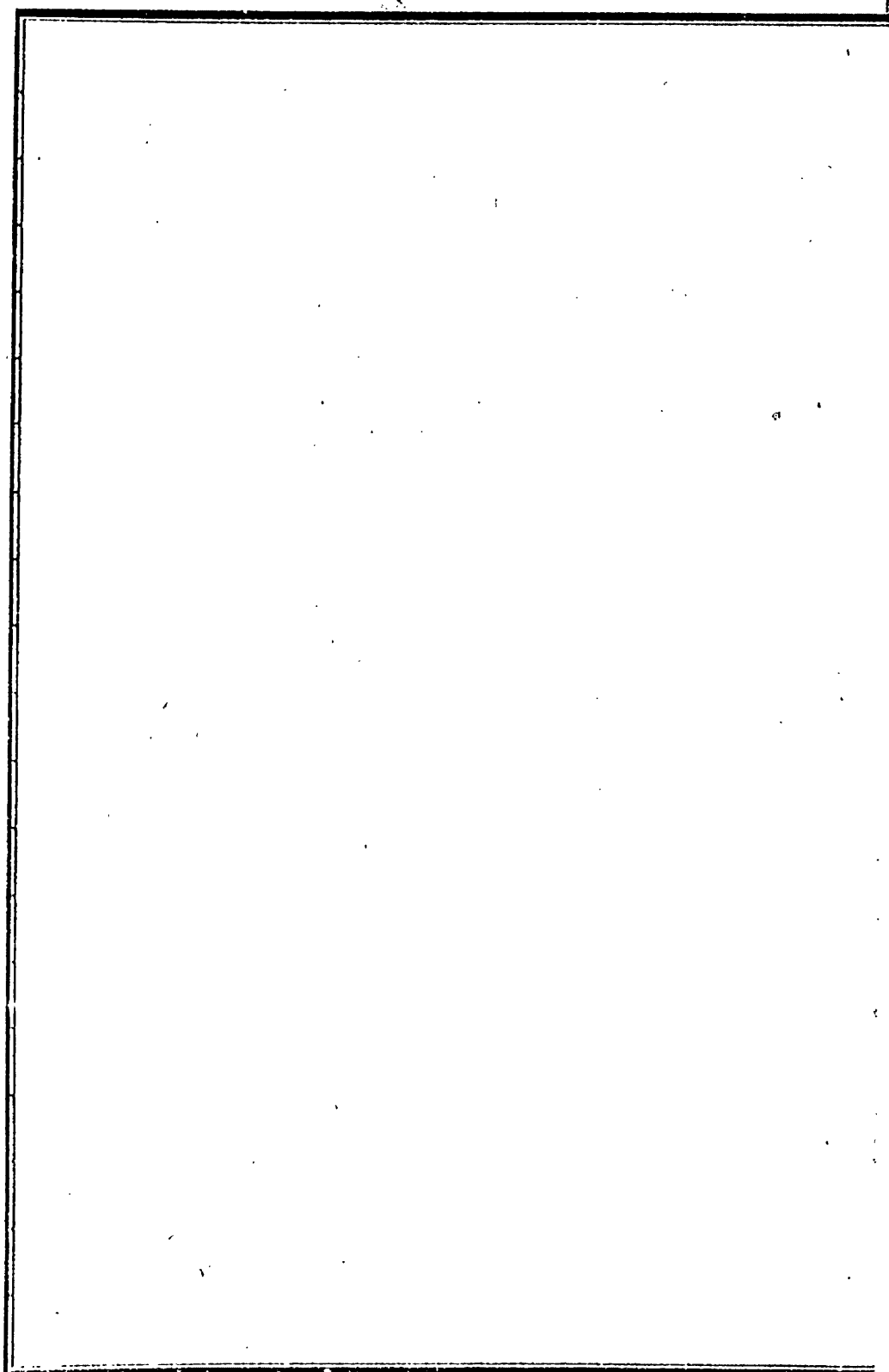
0322

但軍需品ノ交付區分ニ關シテハ別ニ定ム
昭和十二年十二月二十三日

平海作戰陸海軍中央協定抜粹

陸
軍

0324



日本標準規格 B-4

0325

一、作戰兵力

作戰兵力ハ別表第一、第二ニ如シ

本作戦ノ目的達成ノタメ機ヲ看テ更ニ陸海航空戦力ノ強化ヲ圖ル
ニ指揮關係

第五軍司令官ト第四艦隊司令長官トハ協同作戰ス

上陸船團臺灣沿岸出發後ニアリテハ所要ニ應シ第十一師團長第四
艦隊司令長官ト直接協定ス

三、上陸

上陸地ハ平海半島西南部海岸トシ敵前上陸ヲ豫期ス

上陸第一日ヲ十二月二十五日ト豫定ス

四、輸送及護衛

陸軍

0326

(イ) 集合地ハ枋寮トシ第一梯團ノ同地集合ヲ概ネ十二月二十日頃ト
 決定ス

(ロ) 陸軍部隊ノ輸送ハ前項ノ外別表第三ニ依ル

(ハ) 第一、第二梯團（内地ヨリ發進シ單獨枋寮ニ直航スルモノヲ除
 ク）ハ乗船後馬鞍群島（状況ニ依リ護衛艦隊ト中実碇泊場監ト
 ノ協議ヲ以テ變更ス）ニ集合ノ上護衛艦隊ノ護衛下ニ入り枋寮
 集合地ニ回航ス

(ニ) 第三梯團ニ對シテハ特ニ要スル場合ノ外直接護衛ヲ行ハス
 其陽動及企圖秘匿

平海上陸ノ企圖ヲ秘匿偽偏スルヲメ海軍ハ福州、廈門、汕頭、虎門
 赤溪、海南島方面ニ對スル攻撃（爆撃、轟撃）ヲ一層積極的ニ行

フ

六 航空

(イ) 南支方面ニ於ケル航空作戦ハ海軍主トシテ之ニ任シ陸軍ハ其一
部ヲ擔任ス

(ロ) 陸軍部隊ノ敵前上陸及爾後陸軍航空部隊到着マテノ作戦間海軍
航空隊ハ陸軍ノ作戦ニ協同ス

(ハ) 同一方面ニアル陸海軍航空部隊ノ任務ノ分擔、協同ノ要領等ノ
細項ハ出征部隊間ニ於テ直接協定ス

(ニ) 陸海軍ニ於ケル飛行場ノ整備及使用區分ハ互ノ如ク豫定スルモ
要スレハ之ヲ共用ス

第七、第八基地 陸軍

(平海) (金門島)

陸軍

0328

第六基地 海軍
(三龍島)

(内)飛行場ノ警備ハ左記區分ノ如ク豫定スルモ要スレハ現地指揮

官間ニ於テ適宜協定スルモノトス

第八基地 地上警備ハ陸軍、對空警備ハ海軍

第七基地 陸軍

第六基地 海軍

(内)陸海軍ハ燃料、彈藥等夫々自ラ補給ス

(外)味方職別ニ關スル事項別冊第二ノ如シ

セ幕僚ノ交換

陸海軍部隊間ニ於テ連絡ノタメ適宜幕僚一、二名ヲ交換派遣ス

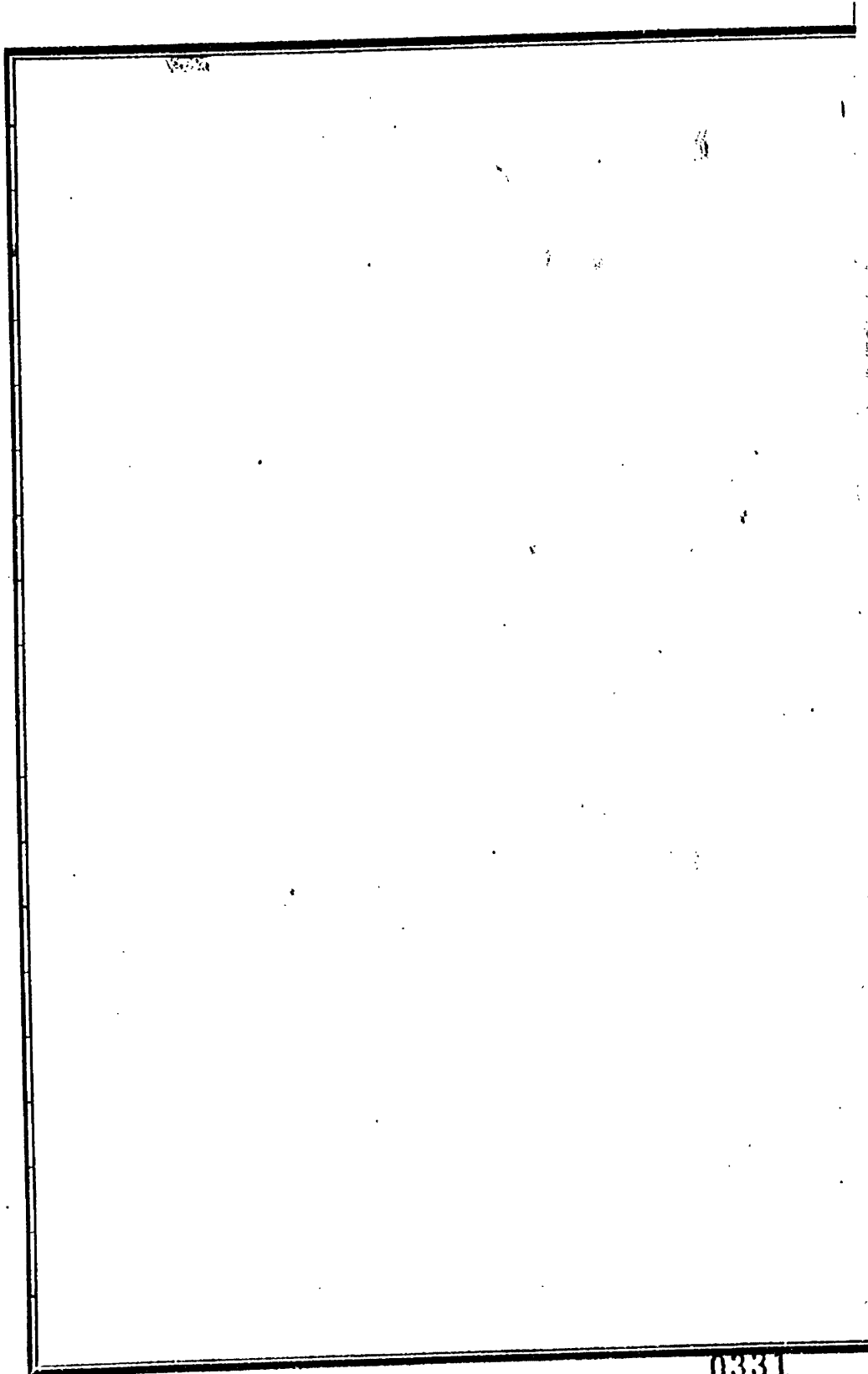
ハ通信

通信ニ關スル協定別冊第一ノ如シ

陸

軍

0330



日本標準規格 B-4

0331

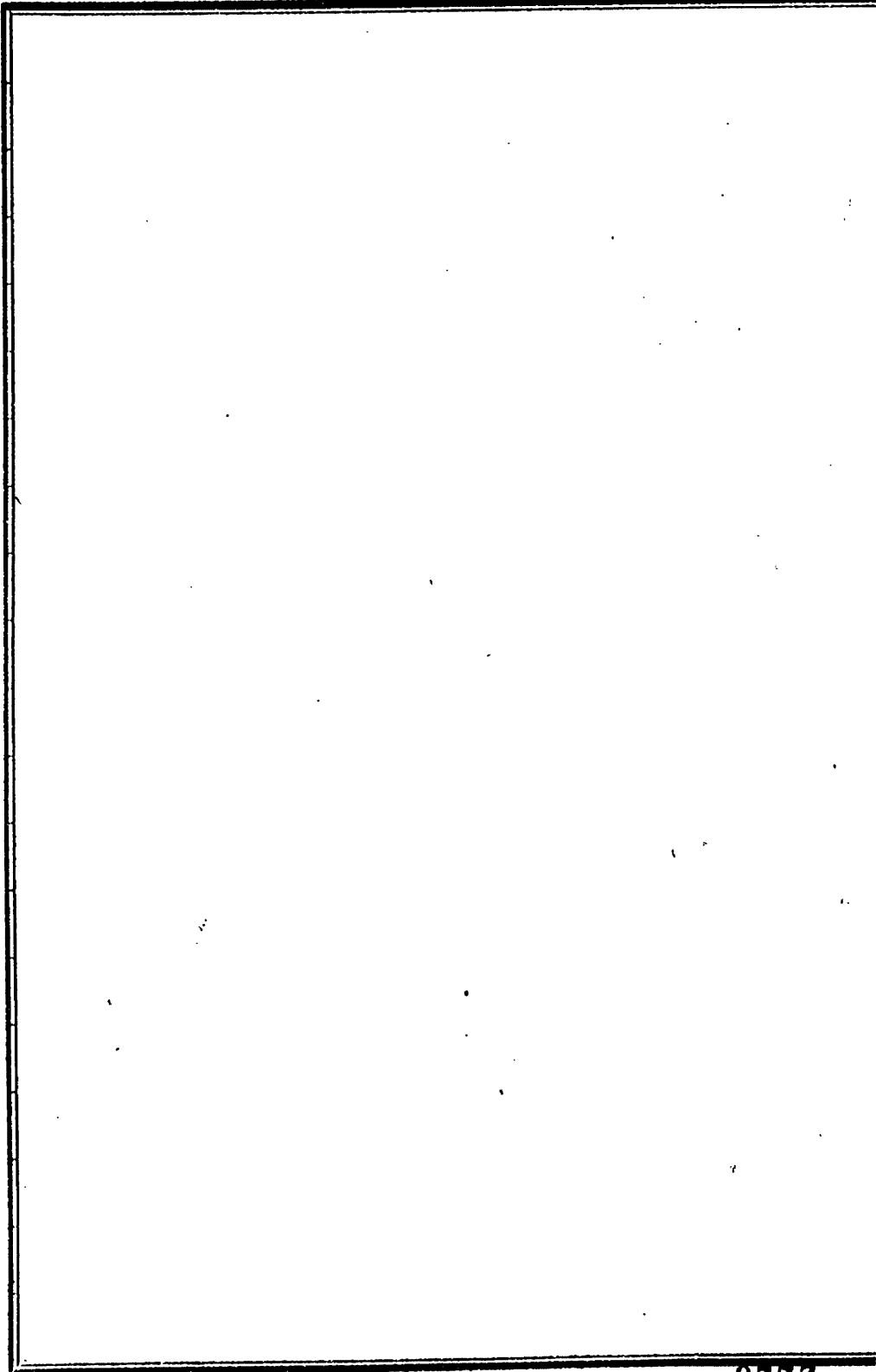
別表第一

第五軍兵力

第五軍戦闘序列ノ如シ

陸
軍

0332



日本標準規格 B-4

0333

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

別表第二

海軍兵力（豫定）

第四艦隊司令長官 豊田 中將

旗艦 足柄

第九戰隊（小林中將、卜妙高、多摩）

第十戰隊ノ第二小隊（藤森少將、卜天龍、龍田）

第五水雷戰隊（後藤少將、卜長良
第十六驅逐隊（驅三）
第二十五驅逐隊（驅四）

第一航空戰隊（草鹿少將、^加賀賀
第二十九驅逐隊（驅二）

第三航空戰隊（寺田少將、卜神威 香久丸）

第十三航空隊（基地完成後進出）

第四水雷戰隊ノ一部（驅四）

陸軍

0334

第三驅逐隊

(圖四)

(註) 航空兵力合計

上陸作戰中約七十機

基地完成後約六十四機

附表第三

戊集團船舶輸送計畫表摘要

備	送輸次二第					送輸次一第					分區次 分區 分														
	圖梯三第					圖梯二第		圖梯一第				部													
						二ノ	一ノ	第十一師團 (步兵一旅團、騎兵聯隊、重砲重ノ一部欠) 臺灣歩兵一聯隊 野戰高射砲隊 四隊 無線電信二小隊 其他																	
一、上海、段山乘船部隊中ニハ北支ヨリノ轉用部隊ヲ含ム (北支ヨリノ轉用部隊ノ乘船地ハ大連トス)	獨立飛行第十五中隊(丁)	飛行第五大隊(一隊欠)	獨立飛行第十四中隊(乙)	獨立飛行第六中隊(甲)	獨立飛行司令部(飛行機)	獨立攻城重砲兵大隊	兵站部隊	騎兵第十一聯隊	野戰照空隊 三	野戰電信中隊	第四飛行團司令部 (飛行機欠)	飛行場設定隊	第十一師團補重ノ一部	兵站部隊ノ一部	重慶支隊 (步兵一聯隊欠)	野戰高射砲隊 二隊	無線電信一小隊	其他	約二萬噸	近附海上	自十二月十五日至十二月十七日	十二月	十二月二十五日	敵	
	約一萬噸					約三萬噸		約五萬噸			約五萬噸			約五萬噸			約二萬噸	近附海上	自十二月十五日至十二月十七日	十二月	十二月二十五日	敵			
	上海	大連	高雄	上海	大連	島廣	近附海上		近附山段			近附海上			近附海上			地船集	次日船集	地合集	次日合集	定檢陸上	陸		
	十二月二十五日	十二月二十七日	十二月三十日	十二月三十一日	十二月三十一日	十二月十九日	十二月十八日		十二月十五日			十二月十七日			十二月			十二月	十二月	十二月	十二月	十二月	十二月	十二月	
	月二日	一月六日	一月二日	一月六日	一月六日	一月一日	十二月二十八日		十二月二十六日			十二月二十六日			十二月			十二月	十二月	十二月	十二月	十二月	十二月	十二月	
	本表日					次ハ若		干變			更スル			コトア			ルヘシ								

日本標準規格 B-4

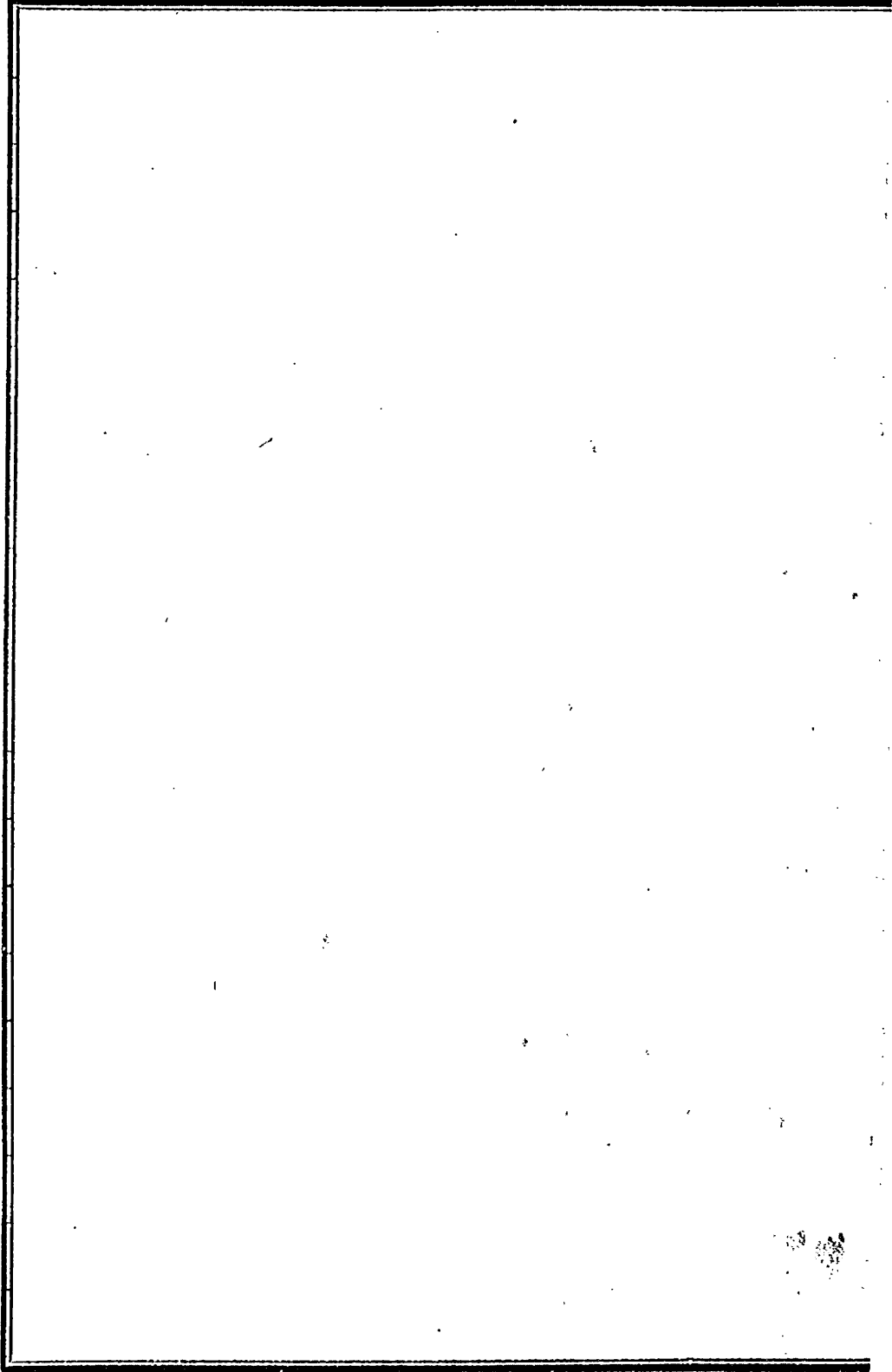
0336

陸軍

	<p style="text-align: center;">考</p> <p>二、第一、第二梯團（内地ヨリ發進シ單獨枋寮ニ直航スルモノヲ除ク）ハ乗船後遂次馬鞍島ニ於テ海軍ノ指示ニ基キ集合點ニ到ルモノトス</p>
--	--

陸軍

0337



日本標準規格 B-4

0338

国立公文書館 アジア歴史資料センター

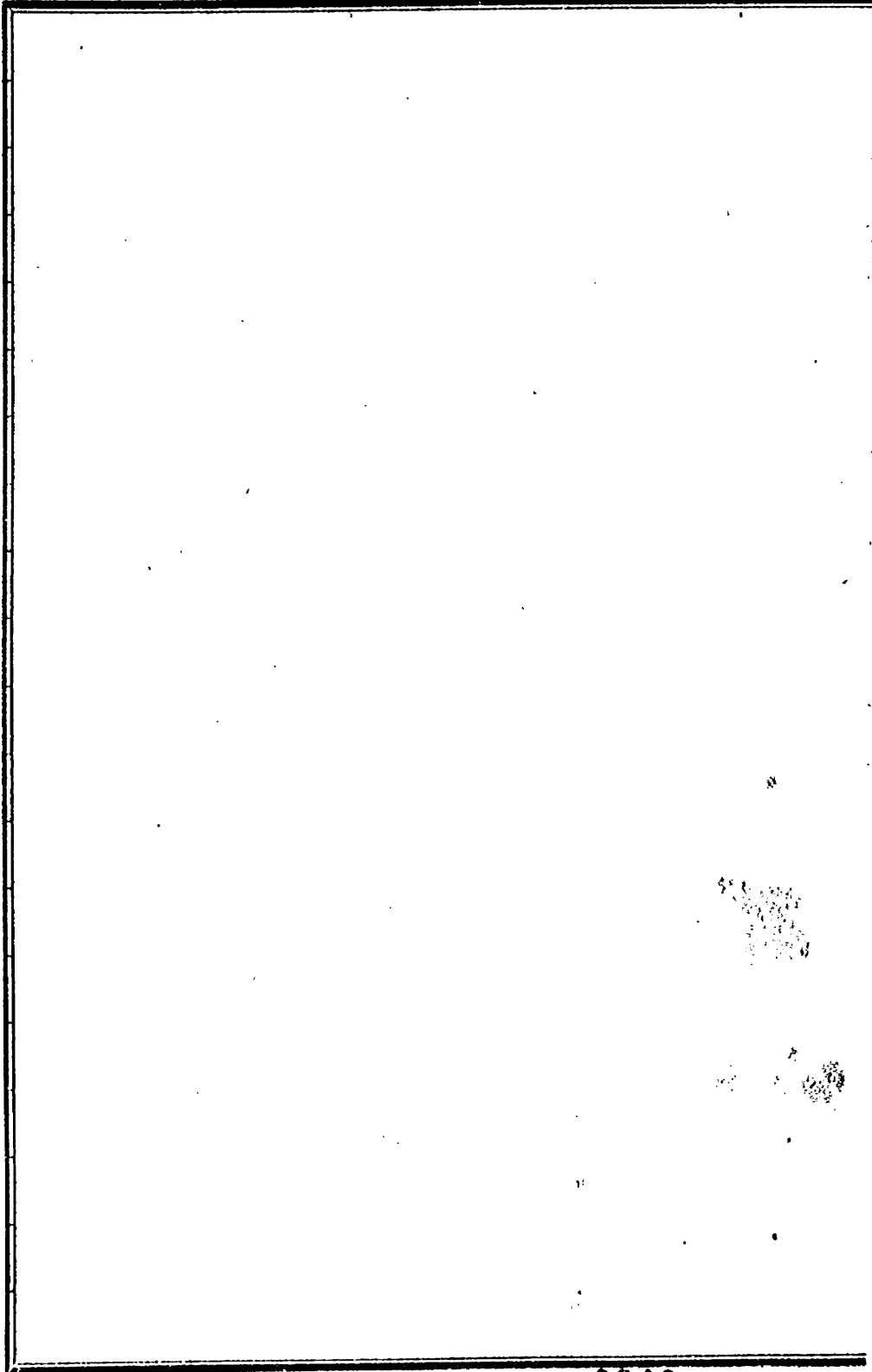
Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第五軍作戰要領

陸軍

0339



日本標準規格 B-4

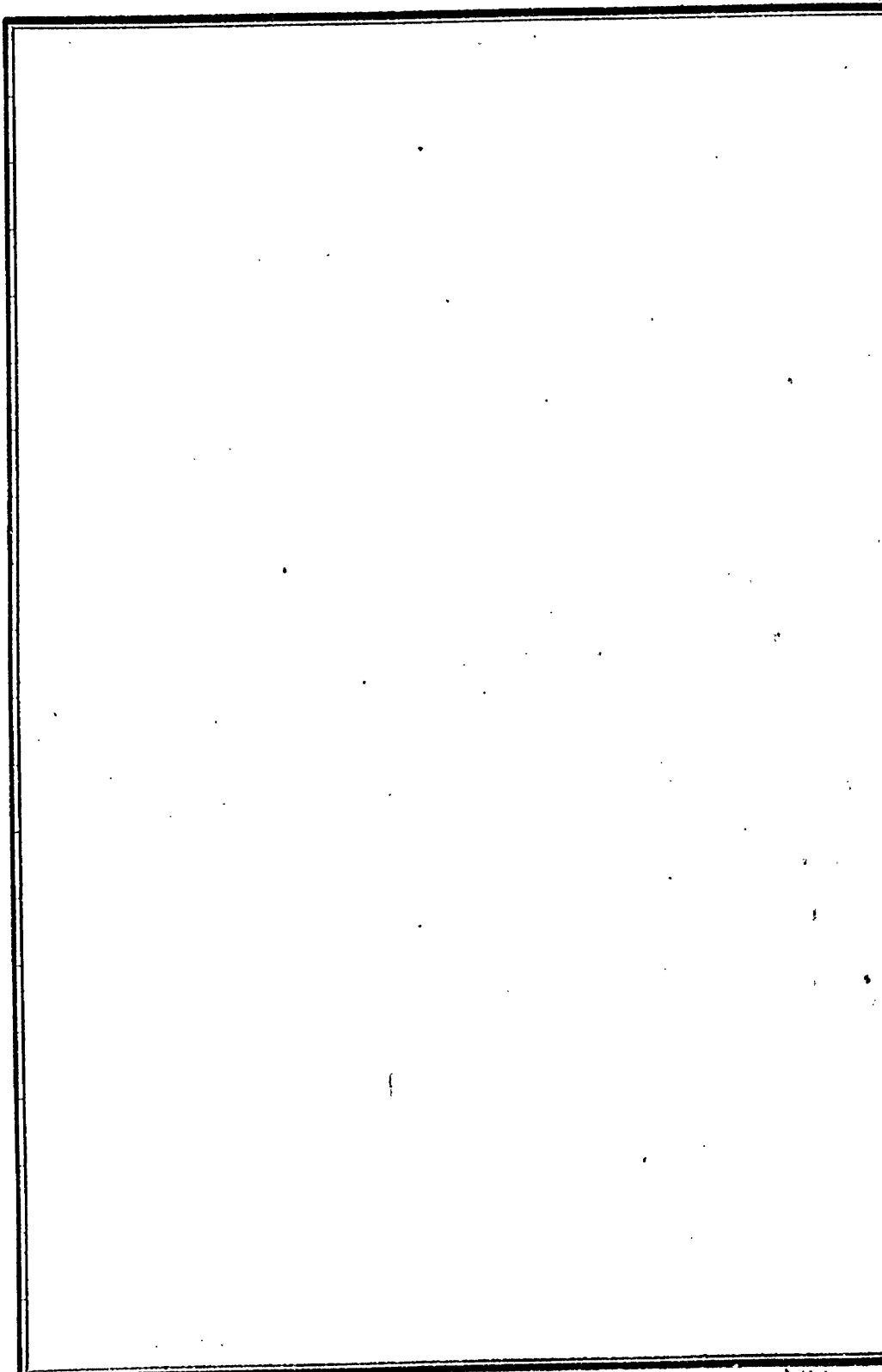
0340

作戰目的

第五軍司令官ハ海軍ト協同シテ南支沿岸及附近ノ島嶼ヲ占領シ航
空機ニヨリ廣東方面ニ於ケル敵ノ補給ヲ阻止ス
之カタメ海軍ト協同シテ占領スヘキ地點ハ平海半島トシ別ニ三箇
島ハ海軍ノ占領後之カ守備ヲ擔當ス

陸軍

0341



日本標準規格 B-4

0342

作戰指導要領

集中及前進

第一南支作戰部隊ハ十二月二十日頃ヨリ逐次ニ枋寮附近ニ集中ス

集中ノタメノ輸送ハ總テ大本營ニ於テ處理ス

諸隊ノ第五軍司令官ノ轄下ニ入ルハ上海、北支、南滿、内地

等ノ港灣出發ノ時ヲ以テス

第三南支作戰部隊ハ左ノ如ク三梯團トナリテ前進ス

第一梯團(約二十万也)、第十一師團長ノ指揮ヲ以テ、~~約二十万也~~步兵約

九大隊、砲兵約三大隊ヲ基幹トスル敵前上陸部隊トス

第二梯團ノ第一班(約十万也)、重藤旅團長ノ指揮ヲ、~~約十万也~~以テ歩

兵三大隊、砲兵一大隊ヲ基幹トスル敵前上陸部隊トス

陸軍

0343

第二梯團ノ第二班(約六万七) 上陸直後ニ必要ナル軍 ~~廿約六万七~~ 直部
隊及後方部隊トス

第三梯團後方部隊及軍需品トス ~~廿約四万七~~

第三第一梯團ヲ以テ平海半島西南部ニ敵前上陸ヲ行ヒ第二、第三
梯團之ニ追及ス但シ獨立シテ他方面ニ上陸ヲ行ヒ得ル如ク準
第三梯團ノ第一班ハ状況ニ依リ

備ス

上陸

第四第一梯團ノ平海半島西南部ニ對スル敵前上陸實行ハ十二月二
十五日頃ト豫定ス

上陸作戰ハ左(二)案ノ一二依ル

甲案

主力ヲ以テ玻璃廠北方ノ海岸ニ上陸シテ直チニ平海、蟬眼山ノ線ヲ奪取ス

有力ナル一部ヲ以テ赤少山西北方海岸ニ上陸シ直チニ大八嶺東方地區ニ進出シテ敵ノ退路ヲ遮斷シ且稔山坪方面ヨリスル増援ヲ阻止ス

乙 案

主力ヲ以テ玻璃廠東方海岸ニ（狀況ニ依リ其一部ハ榜山南方海岸ニ）上陸シテ直チニ平海、蟬眼山ノ線ヲ奪取ス

有力ナル一部ヲ以テ赤少山西北方海岸ニ上陸セシムルコト甲案ニ同シ

第五第二、第三梯團ハ逐次到着スルニ從ヒ鹽田港又ハ玻璃廠海岸

0345

ヨリ上陸ス

狀況ニ依リ第二梯團ノ第一班ヲ以テ白耶土灣ノ北岸又ハ小漠港東方海岸ヨリ上陸シテ敵ノ背後ヲ攻撃セシム

第六平海半島方面ノ戰況之ヲ許スニ於テハ第二梯團ノ第一班ハ平

海半島ニ上陸スルコトナク直チニ三籠島ニ回航シ海軍ト交代

シテ其守備ニ任ス

狀況ニ依リ珠江水路ヲ伶仃島、進断スル目的ヲ以テ仔洲、大商島ヲ占領セシムル

コトアリ

占領地ノ守備及飛行場ノ設定

第七平海半島ヲ占領セハ考洲洋、龍和港ノ線ヲ占領シ所要ノ築城ヲ施シテ守備ニ任ス

第八 上陸後ナルヘク速カニ玻璃廠東方地區ニ飛行場ヲ設備ス尙爲
シ得ル限り大島山北方海岸ニモ飛行場ヲ設定ス

第九 島嶼ノ守備ハナルヘク小數兵力ヲ以テス但守備隊本部ニハ民
政^指相導ノ機關ヲ備フ

航空

第七 飛行團ハ飛行場設備完了ヲ待テ爆撃機及偵察機ハ空中輸送ニ
依リ其他ハ船舶輸送ニ依リ平海半島ニ前進ス其時機ハ一月中
旬ト豫定ス

第十 飛行團ハ主トシテ廣東以南ノ攻撃ニ任シ細部ハ海軍ト協定
ス飛行團ノ攻撃目標トスヘキモノ左ノ如シ
ノ廣東特ニ其停車場、港灣設備其他軍器施設

0347

2 石龍、特ニ其停車場、橋樑

3 廣九鐵道

4 惠陽、東莞、虎門壘

5 珠江上ノ支那船

後方關係及連絡其他

第十三 第十一師團長ノ指揮下ニ適宜ノ方法ニ依リ臨時兵站部ヲ編

組シ後方ノ運用ニ便セシム

第十三 ナルヘク速カニ玻璃廠又ハ鹽田港ニ補給基點ヲ設定ス

補給及交通ノタメ第五軍ニ常時一部ノ船船ヲ備用ス

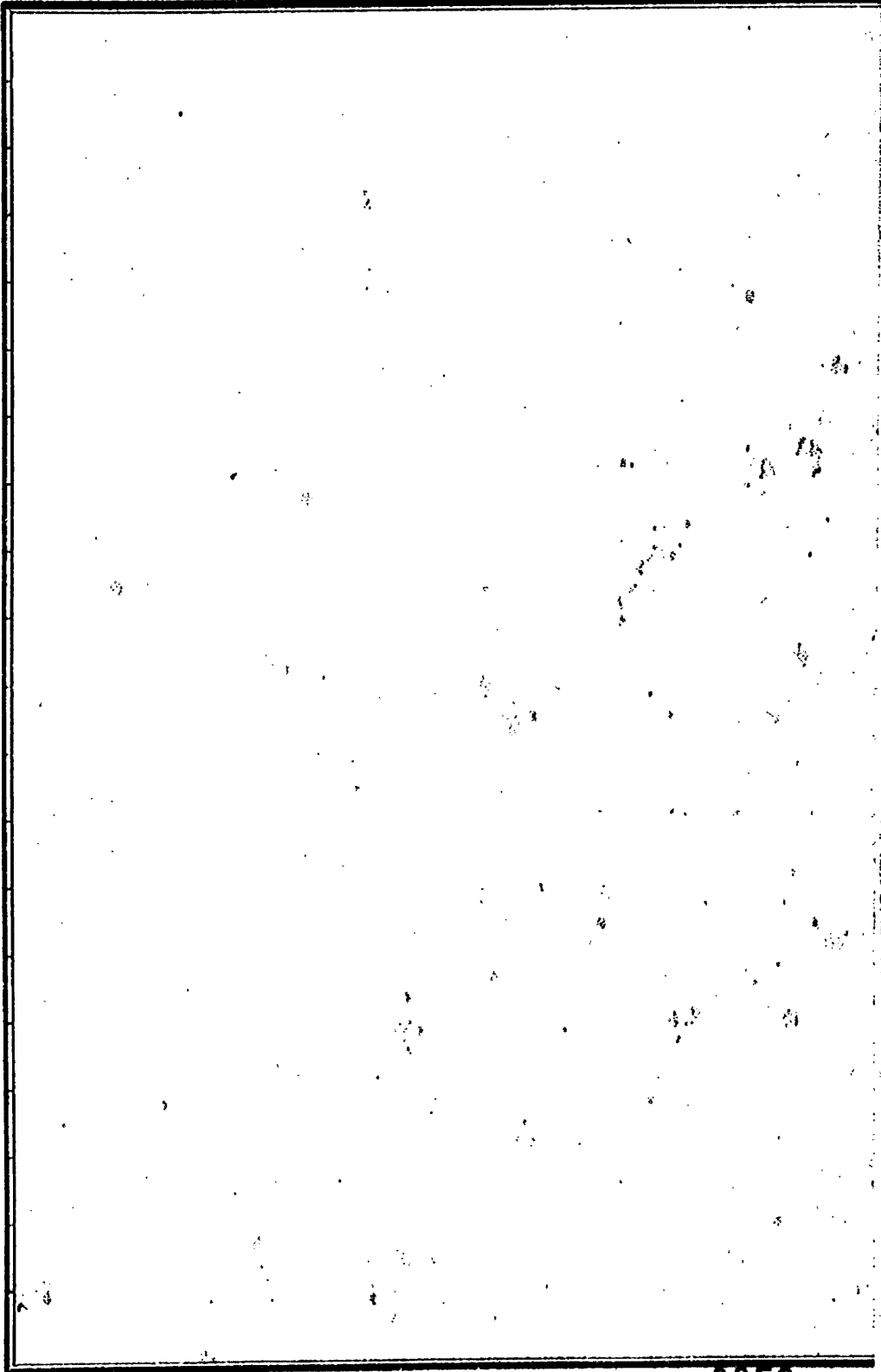
第十四 上陸作戰初期ノ通信ハ海軍側ノ中繼ニ依ル

爾後固定無線ヲ以テ臺北、平海、三壘島間ニ交信系ヲ構成ス

第十五第五軍司令官ハ臺灣ニ在リテ指揮ス狀況ニ依リ軍司令官ハ
所要ノ機關ヲ伴ヒ現地ニ出動スルコトアリ

陸軍

0349



日本標準規格 B-4

0350

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

大陸指第三十一號

指 示

大陸命第三十九號ニ基キ左ノ如ク指示ス

一 兵團司令官ハ轄下諸部隊ヲ鐵道沿線其他ノ要地ニ於テ爲シ得ル
限リ集結配置スヘシ

二 滿蒙國境方面及内長城線附近ノ剿匪作戰ヲ行フニ方リテハ密ニ

關東軍及北支那方面軍ト連絡スヘシ

三 達里諾爾湖（倫北方約百三十軒）東蘇尼特王府、西蘇尼特王府、

百靈廟、固陽、包頭ヲ連ヌル線及黃河ヲ越ヘテ行フ作戰（航空
戰ヲ除ク）ニ關シテハ認可ヲ受クルヲ要ス

四 外蒙方面ニ對スル將來ノ作戰ヲ顧慮シ之カ調査其他ノ準備ヲ行

陸軍

0351

フヘシ

五外蒙政權ノ管轄地域内ニ對シ空地ヨリノ進入ヲ禁止シ嚴ニ拮^紛争
ノ惹起ヲ防止スヘシ

大兵站、交通、通信等ニ關シテハ別ニ指示ス

昭和十三年一月四日